

2021年2月実績概要(メモ)

(2021.3.18)

日数減に加えて稼働率要因等からエチレンをはじめ各誘導品の生産は軒並み減産。

1. 生産動向

イ) エチレン 487,100トン

前月比 ▲9.9% (▲53,300トン)

前年同月比 ▲6.8% (▲35,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲9.7%	▲3.4%
定修要因等	+5.2%	▲2.1%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲5.4%	▲1.3%
生産増減率	▲9.9%	▲6.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月99.2%* → 当月93.8% ← 前年同月95.0%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減による減少が大きく、これに稼働率要因や定修規模差が加わり LDPE、PP、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、トルエンなどの14品目がマイナス。前月に生産が落ち込んだEO、EGのほかBRの3品目はプラスとなった。

前年比では、閏年であった前年に対して、日数減や稼働率要因等から LDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、ベンゼン、キシレンなどの12品目がマイナス。HDPE、MMAモノマー、SBRなどの5品目のみがプラスにとどまった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数減少に加えて定修規模差や稼働率要因も重なり、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

前年比では、前年の閏年に対する日数減少と稼働率要因から LDPE、PP はマイナス。HDPE、PS は逆に稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

国内製造業では生産の待ち直しの動きが続くとともに個人消費面では依然厳しいながらも上昇に転じつつある状況下のもと、汎用樹脂の出荷においても前月比は、LDPE、HDPE はほぼ前月並み、PP、PS はプラスとなった。

前年比では、2月としては前年の出荷が幾分弱含んだこともあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。この中において、LDPE ではフィルム分野での復調が見られはじめているほか、HDPE は中空成形分野、射出成形分野の出荷が増加した。PP は射出成形分野の出荷増加が牽引しプラスとなった。また、PS は数量の多い包装分野を中心に全出荷分野において前年の出荷を上回ることであった。

ハ) 輸出

前月比では、供給量の減少とともに国内向けへの出荷増加要素も加わった結果、当月は LDPE、HDPE、PP はマイナス。PS のみがプラスとなった。

前年比では、引き続き輸出の増加基調にあることに変わりはなく、LDPE、HDPE、PS はプラス。PP のみがマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、PP、PS で減少。HDPE は増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して LDPE、HDPE で上昇。PP、PS は低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE はほぼ適正、PP、PS はタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LDPE	▲2,200	2.9	3.1
HDPE	+1,500	3.0	3.1
P P	▲25,500	2.6	2.5
P S	▲2,200	1.7	1.5

以上

前月からの修正を*で付記